

餅 つくる

新野^{にいの}祐子

一粒一粒艱難越えて今年米

身支度は白一色に帰り花

湯気に頬かがよう冬の漢たち

塩旨し搗き立ての餅引き立てて

肌触り赤子や象や餅を伸す

冬の蠅やっぱり「五月蠅い」と言われ

餅搗き唄あるらし我ら青春フオーク

玄米餅配る脚気になるな雀どち

掃除終え褒美のごとき冬夕焼

紛争地の空しんどかる白鳥来